

令和 4 年 4 月 吉日
さぎそう学舎
世田谷区立八幡中学校
校 長 山田 勝基

令和 3 年度学校関係者評価委員会の報告を受けて次年度に向けた改善方策

令和 3 年度の学校関係者評価について、保護者、地域の皆様にはご協力ありがとうございました。そして、田中委員長をはじめ学校関係者評価委員会の皆様には、今回も、コロナ禍にもかかわらず、何度も学校にお集まりくださり評価を分析して報告書をまとめていただきました。誠にありがとうございました。

丁寧な分析と、本校の教育活動へのとても温かいエールをいただきました。この報告書をもとに、令和 4 年度の教育課程や学校経営方針を定め、具体的な方策によりさらに改善した教育活動を進めて参ります。

※ 学校経営方針・教育課程・指導の重点では、本校の教育活動の目標や、さらに細分化した目標と具体的な方策をお示しいたします。教育課程については一部を提示しています。

1 学校関係者評価委員会の提言を受けて

(1) 学習指導について

コロナ禍だが、全ての項目で生徒の『肯定的評価』が 80%以上であることを評価していただいた。学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」を実践していく。

I C T 機器の活用については、評価委員会の提言にあるように、蓄積したノウハウを生かし、デジタル教科書や、Team、ロイロノート、キュピナ等の個人タブレットを活用した授業を充実、発展させ教員の授業改善にもつなげていく。

学校経営方針・教育課程・指導の重点

- ・校内研修を充実させ、全教員が年間 1 度は、授業改善のための研究授業を行う
- ・校内と学び舎で共通の研究テーマ「PISA 型読解力の育成」の実現に向けて、「読む力」「考える力」「表現する力」の育成を、教科横断的に実践する。
- ・思考力やコミュニケーション能力を育成するためにも対話力の向上を図る。
- ・学校図書館の活用を充実させるとともに、NIE やSDG s も促進していく。

(2) 生活指導について

委員会の提言では「保護者の肯定的評価は 70%台と横ばいだったが生徒の評価は増加し（昨年度は 70%台だったが）3項目とも 80%となった。これは日ごろからの思考や自主性を育む学校側の指導の表れだ」と評価していただいた。生活面でも、生徒会活動や行事等で主体性や上級生のリーダーシップを伸ばし、共に学び支え合う集団作りを進めていく。同時に、そのなかで、個々の非認知能力の伸長も大切にする。

学校経営方針・教育課程・指導の重点

・学級活動や生徒会、委員会活動、行事の取組を活性化して、生徒の主体性や自己肯定感を育むとともに、「目標に向かって頑張る力」「人とうまく関わる力」「失敗から立ち上がる力」等の「非認知的能力」を育成する。同時に互いに支えあい高めあう学級、学年、学校集団を育て協働的な学びの土壌を拓く。

○ 思いやりのある温かい人間関係の育成

- ・人権教育、道徳教育の充実
- ・「いじめはしない させない 許さない 見過ごさない」を徹底

○ 生徒の多様性に応じた指導の徹底 ～個別最適かつ協働的な学びのために～

- ・生徒理解の充実と、生徒、保護者との信頼関係の構築
- ・インクルーシブ教育、ユニバーサルデザインの推進
- ・校内支援委員会、Q-U調査活用の充実
- ・生徒会、委員会、係活動の充実
- ・関係機関との連携

（３）学校行事について

委員会の提言では「ここ数年継続して、全体的に肯定的評価がとても高く非常に好ましい状況である」とお示しいただいている。コロナ禍でも感染防止に努めながら行事の実施に向けて工夫していることで生徒の評価が８０％以上を維持していることにつながっていると思われる。

令和４年度も、生徒の主体性や上級生のリーダーシップを育てながら、生徒の自己肯定感や集団だからこそ味わえる達成感や社会貢献意識を高めていく。

学校経営方針・教育課程・指導の重点

・学校生活の基盤である学級活動を重視し、行事・生徒会活動などの様々な場面をとおして、学級・学年・学校の一員として多様性を理解し、望ましい人間関係の構築を目指す。集団や社会の一員としての自覚と連帯感を高め、協力して学校生活の充実と発展に努めることのできる質の高い集団づくりに取り組む。

（４）キャリア教育について

「自分の進路や将来の仕事について考える授業がある」の質問に２年生、３年生の肯定的評価は８０％を超えているが、１年生のそれは６６％という結果だった。これは、キャリア教育の基本となる「自分を知ること」が、１年生が学習する大切な要素であることにも関係があると思われる。しかし、提言にあるとおり、「キャリア設計や職業についての情報提供」や「先生と（自分の将来や職業、上級学校について）話し合える雰囲気づくり」に注力していく。

学校経営方針・教育課程・指導の重点

・世田谷区の「キャリア・未来デザイン教育」を３年間の具体的な全体計画を見直し、生徒が自らの道を切り拓こうとする意欲と知識を身に付けさせる。

（５）教職員（先生）について

「先生たちは、生徒たちにていねいに指導している」の項目では、生徒の肯定的評価が 91%と高いものの「先生たちは、生徒が相談しやすい」の項目では73%だった。このことについて提言では、教職員が多忙を極めていることをその理由として挙げてくださっているのはよくご理解いただいていると感謝に堪えないところだが、生徒とのコミュニケーションを密にすることや、生徒の微妙な変化を見逃さないことは全教育活動に外せない最重要事項である。提言のとおり「生徒の機微」を見逃さない努力を引き続きしていく。

学校経営方針・教育課程・指導の重点

- ・生徒理解の充実と、生徒、保護者との信頼関係の構築
- ・インクルーシブ教育、ユニバーサルデザインの推進
- ・校内支援委員会、Q-U調査活用の充実

（６）全般について

昨年に続き、学校生活の楽しさや達成感については、保護者も生徒も肯定的評価はいずれも 80%以上と高水準であり、大変素晴らしい状況だ、と評価をいただいている。

学び舎の小学校との交流について、今後のコロナ禍以降の活動を期待する」とエールをいただいている。コロナ感染の状況を勘案しながら、生徒会やボランティア活動も含めて、学び舎の交流を充実させていく。

学校経営方針・教育課程・指導の重点

「安心・安全で、成長の喜びのあふれる温かい学校」

（７）部活動について

「制約の多いなか、保護者も生徒も『肯定的評価』はいずれも 80%以上と高水準であった。引き続き感染対策に十分に留意をしたうえで活動をお願いしたい。」と評価と留意点を示していただいている。部活動は、働き方改革のもっとも大きな阻害要因として挙げられるが、地域力や外部指導員の活用も充実させながら、感染防止に努めて、生徒の成長の喜びを体験する場として大切にしていく。

（８）情報提供について

ホームページについて、昨年度は、保護者で 82%、地域で 81%と初めて 80%を超えた。今年度は、保護者90%、地域85%と肯定的評価が上昇している。提言どおり、引き続き、様々な機会を通じて広報活動・情報提供に力を注いでいく。

（９）学校運営について および （１０）家庭と学校との連携について

昨年度は保護種、地域共に『肯定的評価』が 80%を超えていたが、今年度は「保護者に指導の重点を伝えている」が65%だった。逆に地域のそれは94%だった。

学校経営方針は保護者会などでお話ししているものの、重点をご説明することが十分でなかった。保護者会、学校だより、ホームページなどで、ご説明し、実現していく。

（１１）地域との連携について

保護者と地域いずれの方も６０％前後の肯定的評価だった。これは、昨年度、地域との連携行事ができなかったのが当然の結果だと考える。

学校運営委員会、学校支援コーディネーター、同窓会、学校関係者評価委員会、青少年九品仏地区委員会、青少年委員、主任児童委員、民生児童委員、近隣町会、商店街、九品仏まちづくりセンター他、関係機関などなど、本校の熱い応援団として地域の皆様が支えてくださっていることは、コロナ禍で連携行事ができなかった昨年でも、支えていただいた。

こちらから地域に出て行ってボランティアをさせていただく機会はなかったものの、地域の皆様からはコロナ禍でも、ご支援をいただいた。ステップ（部活動や花壇の整備）や毎週土曜日の検定対策講習、毎週、２日ずつＣ組の家庭科の授業の支援、生徒会の地域清掃の帯同など力強く支えていただいた。本校の大切な宝物として、さらに連携を深めていく。

（１２）学校の安全性について

昨年度に引き続き、安全性の確保については評価していただいていた「安全性には、施設・防犯・防災と、色々な要素が含まれるので、今後もそれぞれのきめ細やかな対策を継続してお願いしたい。」と提言いただいている。学校の耐震・改築工事が次のステージに入り、リフォームした東半分の校舎に生徒の動線が集中している。このことも踏まえ、施設、設備の安全性や防犯、防災の観点からはもちろん、いじめの早期発見、対応など、生徒の心の安心のための対策を大切にする。

生徒１人１人が、充実した中学校生活を送り少しずつでも成長の喜びを感じ、自己肯定感を高め、将来を切り拓いていく力を身に付けていくために、今後も教職員一同、切磋琢磨し質の高い組織的な教育活動を推進していく。